

広報

かわにし

(毎月10日発行)

人口の動き	
— 7月1日現在 —	
男	4,314 (+4)
女	4,404 (+6)
計	8,718 (+10)
世帯数	2,248 (+1)

()は前月比較

平成6年 7/10 No.431

〒948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 (TEL 0257-68-3111)
(FAX 0257-68-3828)
発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社



妻有さとの郷でろばた対話

6月27日、県主催の地域別懇談会が開催されました。午前中は、上野の星名邸(国指定重要文化財)を会場に、平山県知事と妻有の若者9人が、ろばたを囲んで妻有について語りました。町からは、上野の渡貴文人さんと沖立の星名康弘さんが参加され、屈託なく知事と話をしました。

午後からは、中里村のユーモールに会場を移し、県政全般について意見を聞く「さわやかトーク」が行われ、多くの方から県政についての意見や要望が出されました。

☒ 休日救急医

7月10日 第二藤巻医院(上野) ☎ 68-2018

17日 中条病院(中条) ☎ 57-3018

24日 大坪医院(四日町) ☎ 57-6100

31日 至誠堂医院(西浦町) ☎ 52-3276

8月7日 大熊内科医院(山本1) ☎ 52-7066

議会 報告



六月二十一日から二十三日まで、三日間の会期で第四回町議会定例会が開かれました。
二十一日は、八人

の議員による一般質問と、義務教育費国庫負担制度の現行制度の維持に関する請願を採択しました。二十三日は、川西町ホームヘルプサービス事業に伴う費用徴収条例の一部を改正する条例と、一般会計補正予算ほか六件の補正予算を可決。新潟県町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の変更ほか一件を可決しました。

続いて、去る三月定例会で総務文教常任委員会に付託されていた町営スキー場開設に関する請願が採択され、義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書ほか二件を可決しました。

主に補正予算についてお知らせします。



会計名	当初予算 (補正前の額)	補正額	補正後の予算額	補正の主な理由
一般会計補正予算 (第1号)	5,598,000 ^{千円}	100,655 ^{千円}	5,698,655 ^{千円}	住民税の特別減税に伴う減収に対する補てん措置
川西町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	513,000	2,931	515,931	人事移動に伴う人件費の組み替え
川西町国民健康保険診療所特別会計補正予算(第1号)	196,100	2,544	198,644	人事移動に伴う人件費の組み替え及び臨時医師の賃金
川西町老人保健特別会計補正予算(第1号)	918,800	17,493	936,293	前年実績に基づく清算調整
川西町農村集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	941,100	202,320	1,143,420	新規地区採択による事業費増及び継続地区の事業費割当の増額
川西町下水道事業特別会計補正予算(第1号)	684,800	0	684,800	事業工程変更による設計委託費の増(工事請負費の減)
川西町下水道事業会計補正予算(第1号)	290,600	27,873	318,473	JR補償工事費の増

町政に対する一般質問等につきましては、本年度より町議会議員の皆さんによる**川西町議会報**が発行されることになりました。

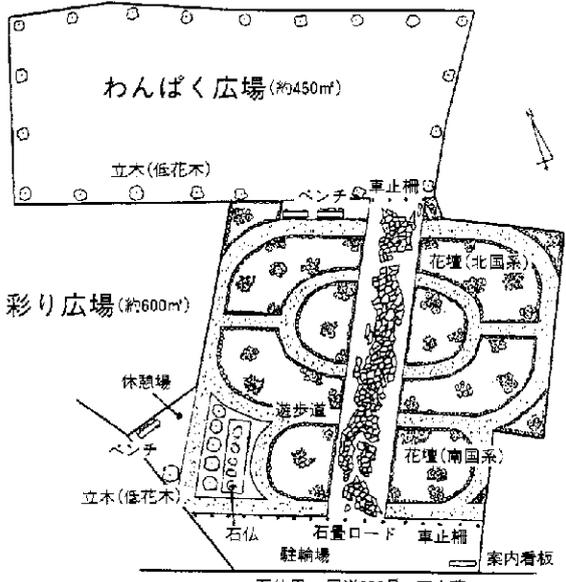
6月の定例会については、7月下旬の発行となる予定ですのでご覧ください。

平成六年度 地域活性プロジェクト支援事業決定

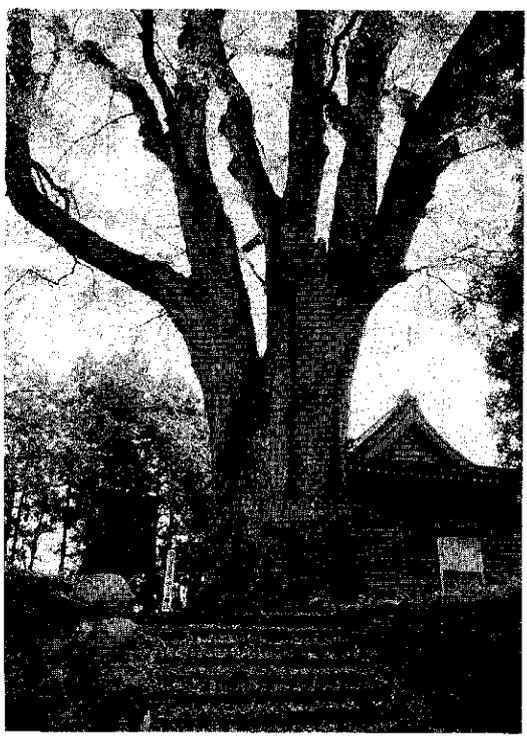
この支援事業は、町内の青年会、PTA等各種団体が、それぞれの地域の特性や資源などを活用して、個性的で魅力ある地域づくりを行う場合に助成し、住民自ら行う地域づくりを推進するものです。

平成六年度から始めた事業で、広報四月号で募集したところ十二団体から応募がありました。かわにし21委員会に諮る等内容審査の結果八団体の事業(下記一覧表のとおり)を支援することに決まりました。

上野「彩りのまちづくり」プロジェクト 整備事業



上野青年会(小林勝利会長)は、慈濟庵跡地を活用し、上野「彩りのまちづくり」プロジェクト(図面)により花の園と遊びの広場を整備します。



赤谷若衆の会(長谷川東会長)は、県天然記念物の赤谷大けやき(写真)を活用し、「大けやきの郷、赤谷」づくり事業をします。

地域活性プロジェクト支援
事業について
二次募集します

今回八事業について支援することに決定しましたが、事業規模の小さいものが多かったため予算に若干ゆとりがあり、二次募集することにしました。

応募締切 七月二十九日
お問合せ 役場開発課振興係
(六八一三二一一)

平成6年度地域活性プロジェクト支援事業一覧表

番号	申請団体	事業名・場所	内容	事業費 千円	補助金額 千円
1	上野青年会 代表 小林勝利 会員 15人	上野「彩りのまちづくりプロジェクト」 (場所) 上野慈濟庵跡地	地域の人が気軽に訪れ楽しめる「花の園」と、子供達のための「遊びの広場」を、地域住民の参加のもとに整備し、地域のシンボルとしての「彩りの空間」をつくり、地域・世代間交流の場とする。 ・彩り広場の整備: 600㎡ ・わんぱく広場: 450㎡	1,599	959
2	赤谷若衆の会 代表 長谷川東 会員 20人	「大けやきの郷・赤谷」づくり事業(第一次) (場所) 赤谷集落内全域	県天然記念物である大けやきを核とした地域づくりを行い、仙田地区における観光拠点にする。 ・集落全戸にけやき苗を配布 ・国道252号赤谷入口部分に、シンボルとしてのけやきを植樹。 ・大けやきの下で集落大演芸会	500	400
3	千手小学校PTA 代表 馬場繁信	親子でベゴニアを育てましょう (場所) 千手地内	親子や地域で花を育てることにより、豊かな心を作ると共に良好な地域環境を創造する。 ・参加者: PTA、地域の人で400人 ・期間: 6月~10月 ・方法: プランター、糞土、ベゴニア苗等を配布し、育てもらう。 ・成果のフォロー: 7月3日(都市PTA研究会会場)と10月23日(学芸会)に千手に集め展示する。花いっぱいコンクールに参加する。	280	168
4	霜条霜遊青年会 代表 小堀良和 会員 27人	霜条フラワーロード等事業 (場所) 大字霜条地内	・町道沿線に花を植えることにより、生活環境美化を図り、うるおいのある地域づくりを進める。 ・イベント着を植えることにより会員意識の高揚を図る。 ・フラワーロード: スイセン750球植栽(幹線道路から体育館までの400m) ・イベント着購入 ・集会用テント購入	462	295
5	中仙田百門会 代表 南雲 弘 会員 35人	中仙田ふれあい町づくり事業 (場所) 中仙田地区	中仙田地区の子供達に夢を与え、一人暮らしの老人とふれあいを待つ。イルミネーションで地域住民に夢と感動を与える。 ・イルミネーション事業: 高さ30mの大本木に、イルミネーションを付ける。 ・サンタクロース事業 ・クリスマスパーティ事業	208	166
6	十七夜祭りを盛り上げる会 代表 星名賢治 会員 71人	伝統行事振興事業 (場所) 大字友重、大字伊勢平治	近郷近在の最大の祭りである十七夜祭りを地域住民こそって盛り上げる演芸大会、特産品の販売、カラオケ大会、児童のサッカーPK合戦等をする。 ・祭半天、売店用テント、演芸、カラオケ機材借用	960	500
7	野口集落 代表 野沢出篤	野口集落遊園地整備事業 (場所) 野口集落センター隣	空地利用で幼児公園を整備し、幼児の健全育成を図る。維持管理を集落で行い、その作業を通じて、コミュニケーションを図る場とする。 ・宅地跡の整備: 299㎡ ・砂場の設置: 30㎡ ・フェンス、遊具、ベンチの設置 ・花壇の整備	1,066	639
8	愛のまちづくり推進委員会 代表 押木幸也 会員 13人	国道252号沿道整備事業 (場所) 元町地内	ふるさとを愛し、育むことを目的とし、私達のまちのすみずみからアメニティをつくる。 ・啓蒙のための看板の取り付け。 ・ミニ公園の造成 ・花壇の整備	195	117

越佐・ほいさ



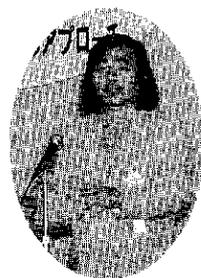
快議 in かわにひ

六月四日・五日、旧白倉小学校と川西町総合センターを会場に県内で地域づくりに取り組んでいるグループの交流大会が開催されました。

この大会を開催するにあたっては、町で地域づくりに取り組んでいる町内連合青年組織YAROUKAI・町商工会青年部等のグループや地元大白倉・小白倉集落の皆さんが、休日昼夜を問わずに打合せや準備をしました。

四日の旧白倉小学校会場には、新潟市や佐渡の畑野町など県内から約二百五十人が集まり、県の海老副知事をはじめ多くの来賓を迎えたなかで、「地域づくり団体新潟県協議会」が設立されました。

続いて、多摩大学教授で小田急学会の望月照彦先生の「地域づくり最前線・いま新潟で日本でそして世界で」と、地域産業研究所長で静岡地域学会の田中孝治先生の「地域学と人づくり・未来づくり」と題した二つの基調講演がありました。この講演のなかで望月先生は、川西町を英語に訳すとリバーウエストタウンとなる。アメリカでは、この名前は発展する町の代名詞



多摩大教授 望月照彦先生

となつてゐる。また、川西町の地形をそのまま再現するとなるとざっと七、八兆円の造成費を必要とするだろう、この自然環境を活用しない手はない。二十一世紀の産業として脚光を浴びるのは農業であろう、頭を使った農業や自然と対話する農業を展開してはどうかと提言しました。また、山形県遊佐町の例を挙げ、芭蕉とシェークスピアという一見関連のないようなものをきつかけとしてイギリスと交流を持つようになり、今では年寄りの方も朝の挨拶に「グッドモーニング」というようになったと紹介しました。最後に、地域づくりには若者のエネルギーと地域的情熱を活用して、楽しく進めていくことが大切であり、「過疎は大変だどうしよう」といったような深刻的な地域振興ではなかなか成功することはできないと結びました。

続いて壇に立たれた田中先生は、地域学というのは一本の道路や鉄道、河川といった共通の生活圈を持つ地域・人を対象にその地域をどうしていけば便利



地域産業研究所長 田中孝治先生

で住み良い所にできるかといったことを自分たちで考えるということがある。また、他の町村と観光や物産等で競争し勝てないようであれば、勝てる部門を独自に開拓すればいい。最後に、人は交流によって刺激を受け、新しいものや方法等を生み出してきた。異なったものが混じり合う「きわ」の部分の大切にしていくと、人と地域の交流が足し算でなく掛け算になると結びました。



地域づくりの話しを熱心に聞く参加者



屋上、庭、教室に分れて情報交換

基調講演の後は、「えっさ快議」と題し、参加者が十四の班に分かれて、それぞれの地域での取組みや問題点等について話し合いました。午後六時から旧白倉小学校グラウンドで始まった交流会も、先のグループ討議での活発な発言が引き継がれ、和気あいあいのうちに宿舎となった松葉荘と川西中学校南原寮の「よーなべ楽集」へと進みまして、どの部屋も普段の活動のことや地域のことに話しが弾み、午前2時頃まで延々と話し込んでいた猛者もいたそうです。

翌五日のほいき快議では、「川西宇コトはじめ」と題して、コーディネーターを望月先生が、助言者を田中先生が務め、町の四人の方から発表がありました。



最初に発表されたのは、昨日の会場となった小白倉青年会の江口篤さんで、「白倉を生きる」をテーマに、小白倉が人の和を大切に

する集落であること。紅葉引きやバイトといった地域に根差した行事があること等を説明し、この交流会を通じて地域交流の大切さを感じた感想を述べました。



川西町文化財調査審議会委員の上村政基さんは「地域おこしは歴史おこし」をテーマに、地域のたどってきた道や現状を見極めていくことも地域おこしではないかと発言されました。



上野青年会の渡賀文人さんは「新しい道・新しい発見」をテーマに、自分が直面している国道252号と主要地方道小千谷十日町津南線の上野交

差点改修計画にふれ、地元の人々の使い勝手のいい緑いっぱい

道であつてもいいのではないかと発言されました。



川西町連合青年組織YAROUK A I事務局の渡辺正範さんは「しぶみ溪国とカワニシ合衆国」をテーマに、

海川で結ばれている松之山町、松代町、川西町、小国町、越路町、長岡市の流域と高柳町の一部を加えた七市町を浚海流域圏とし、統一王朝しぶみ溪国を建国し、物心両面にわたる交流を図っていつてはどうか。川西町のカタチがアメリカ合衆国に似ていること。例えば、州の数と集落の数がいずれも五十一であること。浚海川がコロラド川、関田山脈がロッキー山脈であることなどを挙げ、アメリカとの



いろいろな示唆や助言をいただきました。

交流事業を通じて地域振興を図ってはと提言されました。

それぞれの発言の後、望月・田中両先生から助言やコメントがありました。『こういう会

は一回で終わらせてはだめで続けていくことが大切であり、人と地域が交流することによって新しいものが生まれてくる』とまとめられました。

この会にスタッフとして参加した方は「いい経験になりました。町のなかにも外にも新しい仲間ができたので、交流を続けていきたいです」と、またある方は「準備しているときからみんなな一生懸命で楽しかった。大変だったけどまた機会があったら参加したいです」と話してくれました。



今回の開催地は佐渡の畑野町、川西町からも大勢参加することを約して散会しました。

孫左衛門橋の工事順調に進む

県の市町村代行事業として行っている町道山野田下平線の陸橋「孫左衛門橋」関連工事は、十月下旬の開通に向け順調に進んでいます。

この工事にともなう九月二十日まで車両全面交通止めとなっており、皆様にご不便をかけたおりましたがご協力をお願いいたします。

なお、町ではJ Rの調圧水槽（通称サージタンク）に絵をかく計画でありますので、徐々に進んでいく工事にご注目ください。



万一に備え訓練に励む

十日町地域消防署川西分遣所（大島真一郎所長）では、万一の事故や災害に備えて訓練を行っています。

この日は、防煙マスクに酸素ポンベを背負って壁面を降りる、実戦さながらの訓練を行っていました。



訓練を行なう方も見守る方も真剣です

地域別懇談会開催される

六月二十七日、妻有の地（十日町市、川西町、津南町、中里村）で県主催の地域別懇談会が開催されました。

この地域別懇談会は、県民参加型の県政を実現するため、各界各層の県民の方より生の声を聞き、県政に反映することを目的に各地で開催されています。

この日の午前中は、上野の星名邸（国指定重要文化財）を会場に、十日町市から草野靖子さん、根津明義さん、川西町からは渡貫文人さん、星名康弘さん、津南町からは滝沢忠さん、本山克美さん、福原立志さん、中里村からは村山一恵さん、藤ノ木修さんの九人の若者が参加し、ろばたを囲んで知事と妻有郷の活性化について話し合いました。



上野の
渡貫文人さん

それぞれの方から発言がありました。主なものだけ列記します。

○都会にはない自然があり、あくせくとしない土地柄である。
○親が農業をやっていたので何



沖立の
星名康弘さん
(新潟市在住)

の抵抗もなく農業を継いだ。ただ若い仲間が少ないのが残念だ。
○大学四年生で就職について考えている。地元にも建築関係の仕事はあるが、若いうちは修業の時期と考え、大きな仕事や需要の多い会社で働きたい。でも、いずれは帰ってきたい。

○このような会は大切でありもっと企画してもらいたい。開催日等配慮してもらいたい。などの意見があり、最後に知事は、新潟地震二十周年防災訓練の際、講演したケント・ギルバートさんの話しにふれ、アメリカでは物事は、自立、家庭、地域、行政の順となっていて、例えば福祉のことについていえば、まず自分で考え、手に余るようであれば家庭や地域のボランティアといった順に進み、行政は最後であるといった話を紹介し、『住んでいる土地がどうしたらより住み良くなるか、若い人たちが考え、地域づくりに取り組んでいってほしい』と結びまし

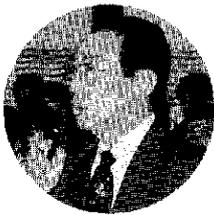


ろばた対話終了後、上野の皆さんと立話し

午後からは会場を中里村のユ一モールに移し、県政についての質問や要望等を聞く「さわやかトーク」が行われました。

会場には約四百二十人が集い、十二人の方が道路改良や農業問題等について県政に要望や提言をしました。

町からは約四十人が参加し、南雲博さん（田中町）、田口直人さん（木落）、小林正夫さん（木島）が質問や要望をしました。

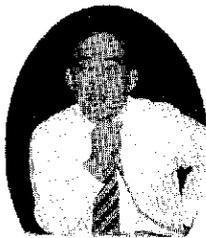


質問する
南雲博さん

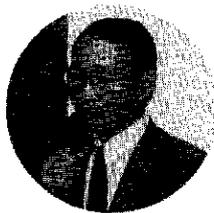
南雲さんは、平成七年度の転

た。

作配分の考え方や中山間地農業に対する県の考えを聞きました。これに対し知事は、平成七年度の転作配分は平成六年度と同じ配分をする方針であるが、水稲の作付に意欲や平成六年度の実施状況及び市町村等の関係機関の意見を聞いて検討したい。また、中山間地については平地よりウルグアイラウンドのミニマムアクセスの影響を受けると思われるので、県単独事業のメニューを増やしたり、関係する事業を国に働きかけていきたいと答えました。



質問に答える
平山県知事



質問する
田口直人さん

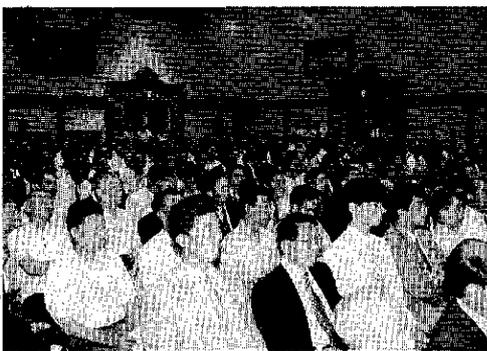
田口さんは、農業人口の流失が懸念される地域で、行政が関係した企業等の新設は考えられないか。農業の後継者（小中学校生）に対する農業教育の考え方について聞きました。これに対し知事は、第3セクター方式な

どによる食品加工といった二次産業化を図ることが必要、観光レクリエーション的なものも考えられるのではないかと。また、農業教育については県単独で作成したものを、資料として教育現場で活用しているため今後も続けていきたいと答えました。



質問する
小林正夫さん

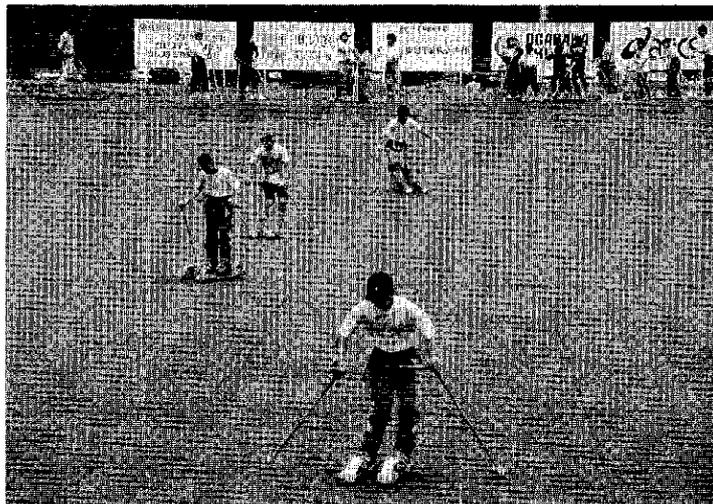
小林さんは、雪を利用した施設建設による地域振興を図ってほしいと要望しました。これに対し知事は、雪国を生かしたスポーツ支援事業も行っているので活用願いたいと答えました。



質問や返答をうなずきながら聞く参加者

中子は身近なプレイゾーン!!

メインコースは、全長120m 巾30m
平均斜度5° 最大斜度7°



●グレステンランド料金表

	小 人		大 人		アーツ レンタル
	用具レンタル	リフト	用具レンタル	リフト	
2時間	500円	800円	800円	1,000円	500円
	1,300円		1,800円		
1日	1,000円	1,500円	1,500円	2,000円	1,000円
	2,500円		3,500円		

◎用具レンタルには、グランジャー・ストック、プロテクターを含みます。

延長料金	小人、大人共30分ごとに500円加算
初心者講習	500円(リフト、レンタル料は含みません)
スクール講習	2時間 2,500円
Tバーリフトシーズン券	20,000円



1.3haの芝生広場、お弁当を持って、一日
ゆっくり過ごしませんか

●パターゴルフ料金表

施設等	使用者等	使用料	単 位	
コ ー ス	個人	大人	900円	1ラウンド当り
		子供 (中学生以下)	400円	"
	年間会員	100円	"	
夜間照明	ナイター時施設使用者	200円	"	
パター		100円	1本	
運動靴		200円	1足	
ボール	無料貸出し	-		
年間会員権	個人会員	5,000円	1シーズン当り	
	ファミリー会員 (5人以内)	10,000円	"	

※10人以上(年間会員を除く)で使用する場合、コース使用料を
1人200円割引します。

中子グリーンパークは、ふるさと創生事業の一環として造成し、平成三年度より皆様の憩いの場所としてご利用いただいております。六月五日、芝生広場の隣にグレステンランドがオープンし、中子のプレイスポットがまた一つ増えました。グレステンランドは、約五千平方メートルのコースに初心者用とメインのコースが作られています。

滑っていた新潟大学スキー部の方は「スポーツとしてとてもおもしろいと思う」と、会社の同僚で長岡市と柏崎市から来たという方は「場所がチョットわかりずらかったが、おもしろいので今度は友達も連れて来たい」と、またインストラクターの方は「初心者でも少し講習を受ければ安心して滑れるのでぜひどうぞ」と話してくれました。天気の良い日に、お弁当を持って、気の合う仲間やご家族そろって、中子台地でリフレッシュしてはいかがでしょうか。

土・日曜・祝日及び夏休み
午前8時30分〜午後5時
営業

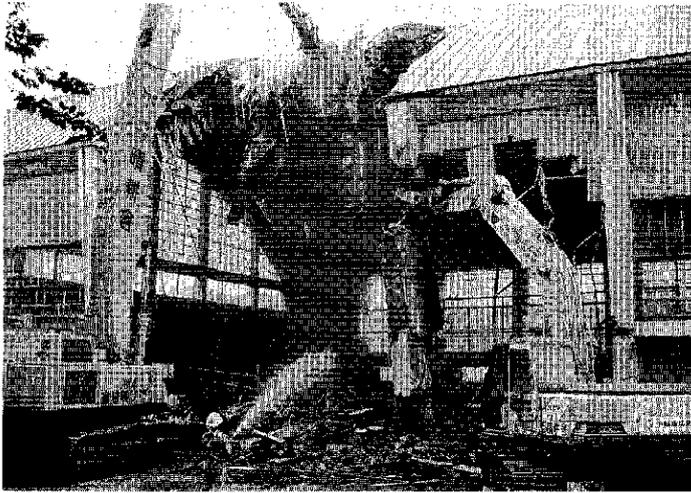


9月上旬までは午前9時〜午後9時30分、9月中旬からは午前10時〜日没まで営業

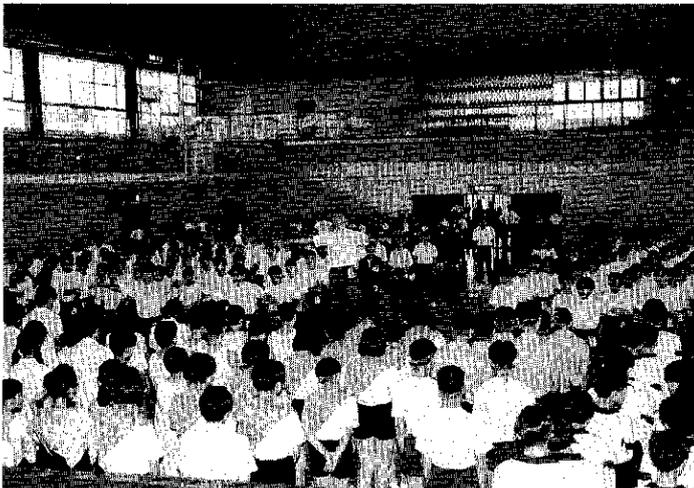


ナイター施設完備の18ホール
夕涼みがたらどうですか

川西中学校 新体育館の建設が本格化



▲バックホウのアームが動くたびに親しんできた体育館の姿が変わりました



▶フレイフレイ川中!!

六月十四日、川西中学校の屋内運動場改築工事がいよいよ本格化、昭和三十九年から川西中学校の生徒を見守り続けてきた体育館に、大きな建設機械の巨大なアームが伸び、一動作ごとに、生徒の歓声を包んできた体育館が解体されていきました。この日は、十五日に行われる郡市の各種大会の壮行会が総合体育館で行われ、九種日に出場する選手達を応援

歌やエールで激励しました。この会の中で菅井校長先生は「懐かしい体育館は今日中になくありませんが、体育館の建設を期して、また新しい川西中学校魂を作っていつてもらいたい」と激励されました。解体作業を見ていた方は「この体育館は私たちが最初に利用しました。今度は、子供が中学生になり、新しい体育館を利用するんですよ。何か時の流れを感じますね」と話してくれました。新体育館の概要は次の通りです。

項目	区分	新体育館	旧体育館	比較
延床面積		4,360 ^{m²}	1,666 ^{m²}	約2.6倍
内訳	体育館部	1階	1,725	約3.0倍
		2階	278	
		3階	806	
	廊下外	17	232	—

新旧体育館大きさ比べ

新体育館の1階は多目的広場です。

若山さんに観光功労表彰

長年にわたり川西町の観光事業に取り組んでこられた若山三郎さん（新町新田）が県観光協会（厚地武会長）から観光功労者表彰を受けられました。

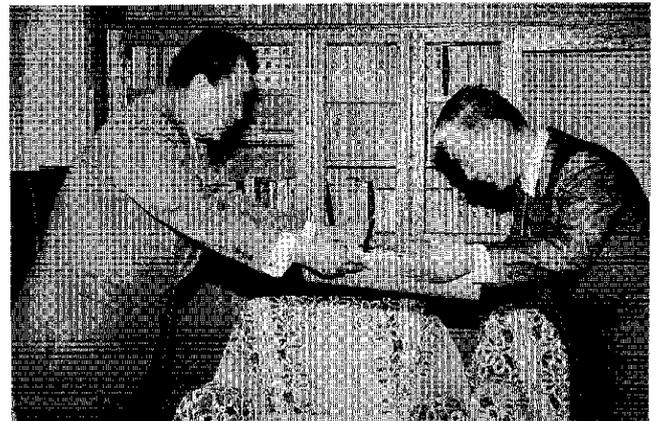
若山さんは、昭和54年から14年間にわたり節黒城跡保存会長を務められ、現在は天神ばやし保存会長、町郷土芸能協会会長をされています。



故太田長栄さんが叙勲

故太田長栄さん（中央町）は、長年の保護司活動が認められ、勲5等瑞宝賞を授与されました。

この日は、亡くなられた太田さんの代わりに、親族代表として高崎正弘さんが、新潟保護観察所長三宅康男さんから叙勲の伝達を受けました。



赤勝て！白勝て！各地で運動会



上野小 4～6年「騎馬戦」

六月五日、川西町の四つの小学校で運動会が行われました。
千手小学校では「一人一人がヒーローだ！」をスローガンに二十一の種目に。上野小学校では百二十周年を記念して二十二の種目に。橘小学校では橘・白倉統合を記念して二十一の種目に。仙田小学校では仙田地区の運動会も合わせて二十七の種目に親



千手小 5・6年「大地の躍動」



仙田小 地区対抗「めくっちゃいやよ」

子や地区の皆さんが一日中汗を流していました。
この日は晴天に恵まれ、各校とも趣向を凝らしたプログラムで盛りだくさん。グラウンドは一日中歓声に包まれていました。



橘小 1・2年「とんとんとんでジャンケンボン」

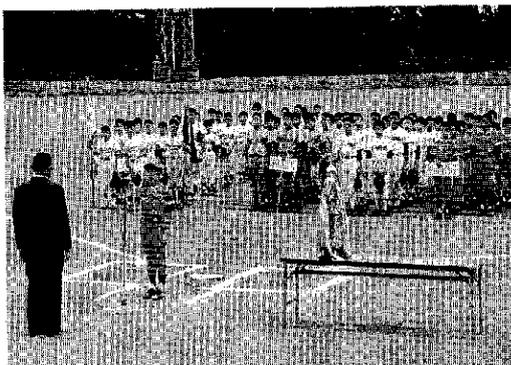
なかまの家で運動会

六月十二日、総合体育館でなかまの家（小林重俊施設長）の運動会がありました。二階のランニングコースに手製の聖火台を飾り、元氣一杯頑張りました。写真の競技は、普段中子のゴルフ練習場で仕事としてやっているボール拾いを種目に取り入れたものです。



スポ少の野球大会

六月二十日、庚塚野球場で第十六回県スポーツ少年団軟式野球交流大会中越地区大会予選会兼第十八回新潟日報杯中魚沼地区大会が行われ、川西町からは千手タイガースと橘ドラゴンズが、津南町からは下船渡レッドイーグルスが、中里村からは倉俣ファイターズが出場し交流を深めました。
結果は、橘ドラゴンズが優勝し、二十五日と七月五日に長岡市で行われた中越大会に出場し、健闘して第三位となりました。



宣誓する千手タイガース 鴨原君

無人ヘリによる航空防除

新潟川西農業協同組合（丸山欽一郎組合長）では、防除の人員確保の困難な状況及び経費の節減等を図るため、県の補助事業を導入し、無人ヘリコプターによる適期防除・高生産性体制を確立すべく、下島地区に一台導入しました。

従来の、下島地区では地上防除で8人の作業員を必要としておりましたが、無人ヘリコプターによる空中散布では、オペレーターに補助員を含めて四人で作業可能となります。

事業費はヘリコプター一台で六九〇一千元、このうち県より二六八〇千円、町より六七〇千円の補助があります。

なかまの家で

おからクッキー

なかまの家アクトでは、最近あまり食べられなくなったおからに注目し、おからクッキーとしてイベント等の際に販売しています。

作り方は、おからの水分をなくしてパウダー化し、これに小麦粉、卵、バター、砂糖をよく混ぜ、オープンで十六分位焼き

ます。サククリとした歯ざわりと豆の風味が残っていて好評ですが、最産化がで

きず注文に

水不足で田に亀裂

昨年は長雨低温、今年は干ばつかとも思えるほど晴天の日が続き、仙田地区の天水田を中心にヒビや亀裂が入りました。六月中旬の降雨により、いきをついた田もありましたが、植え付け出来なかった田も約四十軒ほどあり、生育障害を起こしている田も見うけられます。（中魚沼農業共済組合調べより）

これからの天候による要素もあります。が、順調に成育して欲しいものです。



エンジンの音も高らかにラジコンヘリがティクオフ



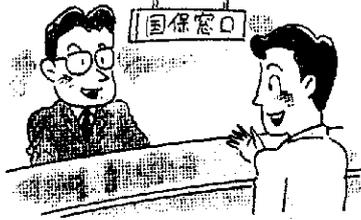
サクツとした歯ざわりでおいしいよ



中央のシャープペンシルが15 cm ヒビの大きさを想像してください。

御存じですか 国保制度

今回から数回にわたり、広報とお知らせ版を使って国民健康保険制度のあらましをお知らせします。第1回は「国保をささえるもの」です。



保険税ってなあに?

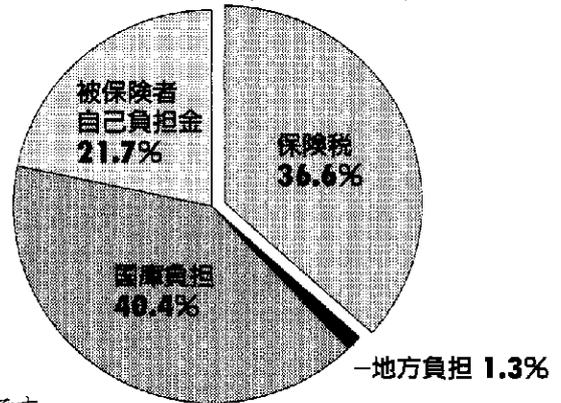
国保は、助け合いの精神にもとづいて、加入者の万一の病気やケガ、事故などにかかる医療費の負担を軽くしようとするものです。したがって国保に加入すると、世帯主は保険税を納める義務を負わなければなりません。

病気や診療所などの窓口で支払う自己負担金を除き、国保で必要とされる医療費から、国・地方自治体負担分を引いたものが保険税です。

適正な医療費負担のためにも、保険税は必ず納めなければならない大切な財源なのです。

国保の財源

(一般の加入者の場合)
平成4年度全国平均



所得割額

各世帯の収入に応じて計算



平等割額

一世帯にいくらかと計算



均等割額

各世帯の加入者数に応じて計算



資産割額

各世帯の資産に応じて計算



保険税はこうして決められます

保険税は、次の4種の項目について、世帯ごとの負担額を計算し合計したものが、1年間の保険税となります。

保険税

保険税は、上記の4種の計算法を基本に、各市区町村の実情により組み合わせて決められます。

色とりどりのしょうぶ

松葉荘展望台の裏手にある松葉沢公園のしょうぶが見頃です。

今年は、六月中旬までの晴天でしょうぶの生育が悪く、開花が遅れていましたが、二百三十種八千株のしょうぶが色とりどりに咲き競っています。



二百三十種のしょうぶをお楽しみください。

六月三十日、橋保育園で祖母参観が行われ、子供たちと一緒に七夕飾りを作りました。おじいちゃん、おばあちゃんが園に来るといので、子供たちは朝から興奮気味、思い思いの飾りを一緒に作り短冊に願いを込めて大きな竹に結びました。短冊には「おおきくなったら、くるまのうんでんしゅになりたい」、「セーラームーンになりたい」、「なきむしがなおりますように」など、願いがかなうといいですね。



短冊に願いを込めて

町職員募集

(採用試験実施要項)

一般事務 初級 3人 採用の予定
 申込受付 7月10日～8月15日

(郵送消印は8月12日まで)

町では平成七年四月一日採用の一般事務職員(初級職)三人を次の要領で募集します。

【受験資格】

昭和40年4月2日～52年4月1日生まれの人

【試験の日時と場所】

1 一次試験 (県人事事務組合がする試験)

試験日 9月18日(日)

受付時間 午前9時～9時40分

試験場 長岡市四郎丸町 県立長岡大手高校

【試験の方法】

高校卒業程度の内容で、地方

公務員として必要な一般的知識と知能について、択一式の筆記試験と作文試験及び事務適性検査を行います。

携行品 受験票、HB鉛筆、消

しゴムなど。ボールペ

ンや万年筆使用は無効

合格発表 10月中旬ごろ

2 二次試験

試験日 11月上旬ごろ(二次試験合格者に別途通知)

試験場 川西町地域活性化センター(役場裏)

方法 面接試験

【採用日】

平成7年4月1日

【受験手続き】

申込書の請求先 役場総務課

行政係

【申込書の提出】

受験申込書に所用事項を記入

押印。

写真(縦4cm×横3cm無帽・

正面上半身)三枚を添えて役

場行政係へ。

【申込書に添付する書類】

履歴書 一通

学校の成績証明書 一通

【申込書の受付期間】

7月10日～8月15日(郵送の場合、消印は8月12日まで有効)

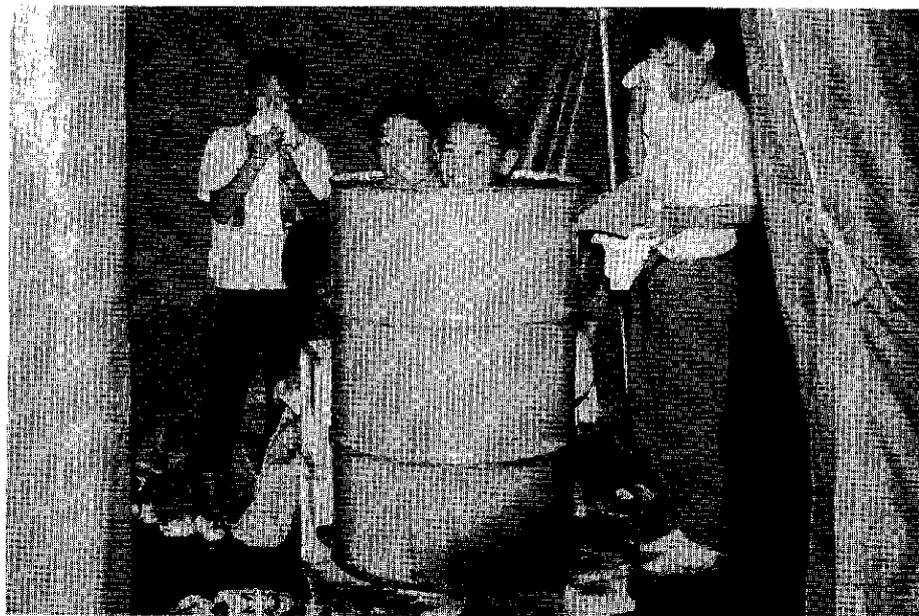
【問い合わせ先】

役場総務課行政係

公六八―三二―一

右線 二二三三

ドラム缶のゴエモン風呂・アライイ気持



自然体験のおさそい

仙田郷子ども村

- ◆ 活動場所 新潟県中魚沼郡川西町仙田地区
- ◆ 活動期間 7月27日(水)～8月1日(月)
- ◆ 参加対象者 新潟県内・関東地区在住の児童・生徒(小3～中3)30人
- ◆ 参加費

長岡駅集合・解散	小学生	37,000円	中学生	37,000円
上野駅集合・解散	小学生	42,000円	中学生	50,000円
現地集合・解散	小学生	33,000円	中学生	33,000円

(上記参加費には、交通費・滞在費・指導費・保険料などが含まれています)

- ◆ 参加申し込み締め切り 7月20日(水)
- ◆ 問い合わせ先 〒948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字霜条144
川西町教育委員会内「仙田郷子ども村」係

☎0257-68-2167

千手村の学校問題①

岩瀬 金子 幸 作

はじめに

地理的な環境から古来一村で扱われてきた仙田村は、とかく排他的な封鎖性が強くて学校問題にも怨念がこもり、半世紀にわたつてもめ続けた経緯はこれまでに述べた。それにひきかえ明治以降の小村合併で大きくなった千手村の学校問題（千手校と中野校の統合）は、運命共同体的な地縁集団の対立とは違つた一過性のトラブルで、大きな台風が来て過ぎ去つたに等しいカラツとした騒ぎであつた。

本号からその「千手村の学校問題」をとりあげることにしたが、本筋に入る前に、近隣の町村長が辞職するに至つた要因や小村解消の政策に呼応してうぶ声をあげた千手町村と中野村の成立から説くことにしたい。

学校問題が命取り

町村制の施行（明治二十二年四月）以後、川西町の誕生に至るまでの旧町村長の在任期間を調べてみると、住民の衆望をになつて就任した首長が任期なか

ばで辞職する例が少くない。第二次世界大戦の直後に旧中魚沼郡二十二町村のうち十七カ村の村長が戦事責任をとつて一斉に辞職した場合を別にすると、表向きは「一身上の都合」であっても、仙田や千手では学校問題が收拾できなくて引責辞職した人がほとんどのようである。

首長が辞職すれば「待つてました」とばかりにだれかが権力の座につくのが世の常であるのに、その栄光を担う人がいなくて、知事や郡長から村長代理を命ぜられた役人が着任し、村の偉いさん方を向うにまわして村政に君臨した不面目な時代をかえりみ、躍進する川西町のいましめにしたがひたい。

千手村にも村長代理

仙田村の学校問題と似た例が千手町村（明治二十二年から大正十一年十月まで）と千手村（大正十一年十一月から昭和九年七月まで）にもみられる。大正五年一月二十五日に千手町村長の清水甚一（中屋敷）が辞職

したが、そのあと村長になり手がなくて中魚沼郡役所から樋口新吉郡書記が千手町村長職務管掌として着任、五月十日以降は大滝幸一郎が十月三十一日まで村長臨時代理を勤めている。

千手町村と中野村が合併して千手村になると、学校問題がこじれて昭和五年五月十二日に高橋増三郎村長（坪山）が辞職、収入役を兼任していた丸山春吉助役（中屋敷）も辞職し、新潟県属の前川謙治が職務管掌に任命されて同月二十六日まで在職する。そのあと青柳松蔵（新潟市西大畑）が村長臨時代理者となり、千手の大和屋旅館に住所を移して翌六年一月二十七日まで在職し、同日付で千手村長に就任した丸山春吉と交代する。

辞職の多い上野村

上野村では村長を勤めた十六人（再任者を含む）のうち十人が任期なかばで辞職している。辞職の時期を年代別にみると明治三十九年から六年間に四人、大正十五年から昭和六年までの間に三人、同十二年から二十一年の間に三人が辞職しているが政治的な申し合わせがあつたのだろうか。上野村は明治後期に県が中野村や橋村との合併を勧告するたびに村中が大きくゆれ

ており、また、村会勢力二派の中で大字所有の林野（共同ボイ山）の統一をめぐるつてもめることがあつたようだが軽率な記載は慎みたい。橋村は、ほとんどの村長が任期を満了している。

千手村の誕生

市町村制が施行されるに当たり、県は「町村合併標準」を策定し、従来小さな集落を単位に構成されてきた村がおおむね三百戸以上の村になることを標準に町村合併を促進した。川西町では仙田村がこれまでどおり一村のままであつたが、明治二十二年に新しく千手町村、中野村、上野村、橋村が誕生した。

千手町村は水口沢村、中屋敷村、東善寺村、上新井村、山野田村、沖立村の六カ村が合併して一村となつたが、明治十四年に上新井村の内から真田村（現十日町市）を分離独立させたほかは従来の区域に変更がなかつた。合併の事由は「各村小弱独立ノ資力ナク、水口沢村外四カ村ハ古来千手組ト称スル一小事場ニシテ民俗風俗一ナルヲ以テ合併ヲ便トス、又沖立村ハ接続ノ小村ニシテ之レニ属スルニ異議ナシ」で、古来千手組と称していたことを理由に千手町村と称した。合併前年は戸数合わせ

て三百七十戸、人口は二千八百人を数えている（川西町史）。

中野村の誕生

中野村は鶴吉村、霜条村、坪山村、高原田村、伊勢平治村、友重村、弘道新田、宗正村をもつて一村とした。この村は明治十三年に水口沢村の内旧観音堂領十三戸を分離して友重村に合したほかは従来の区域に変更がなかつた。合併の事由には「千手町村ト上野村ノ中間に点々散在セル小村落ヲ合シテ新村ヲ造成セルモノニシテ、地形平坦交通便ナルヲ以テ合併ヲ便トス」と記されている。中野村と称したのは上野村と千手町村の中央に位置したからであつた。合併前年の戸数は二百七十七戸、人口は一千二百九十三人を数えている（新潟県市町村合併誌）。



（南雲町長提供）

新刊のりものえほん
全刊三十五巻紹介 小峰書店

◎幼児から親子で楽しめます。

- ① おおさかかんじょうせん
- ② きしやにのっていつてきます
- ③ F-1 グランプリ
- ④ 東京のでんしゃずかん
- ⑤ ひこうきにのったよ
- ⑥ ぼくのまちの路面電車
- ⑦ 電車でしりとりに箱根へいった
- ⑧ あたらしい新幹線大集合
- ⑨ ぼくは五〇〇〇がた電車
- ⑩ 東京の水上市バス
- ⑪ あつまればたらしく自動車
- ⑫ ぼくの特急えきたんけん
- ⑬ ぼくと上越しんかんせん
- ⑭ J.R まわるまわる山の手線
- ⑮ 走れ二階建て新幹線
- ⑯ ぐんぐんはしれ中央線
- ⑰ ちいさな赤いきかんしゃ
- ⑱ ころちゃんのはたらき自動車
- ⑲ J.R 新しい特急ずかん
- ⑳ 関西のでんしゃずかん
- ㉑ ブルートレインはくとせい
- ㉒ うみねこいわての宅急便
- ㉓ のってみたいな特急ずかん
- ㉔ いやいやバスの二ばんくん
- ㉕ あさいちばんの新幹線
- ㉖ 走れちんちんでんしゃ
- ㉗ へんしん自動車えんこくん
- ㉘ ブルートレインさくらごう
- ㉙ はしご車せいのびくん
- ㉚ かもつれつしゃのワムくん
- ㉛ どんこうれつ車がとまります
- ㉜ しゅっぱつしんごう
- ㉝ 走れ東北しんかんせん
- ㉞ 海の電車ぼくらの江の電
- ㉟ J.R あたらしい電車ずかん

ムラ言葉その2

小海正太郎（小根岸）さんの
発刊された、ふるさと言葉改訂
版「中魚沼のムラ言葉抜粋5千
字」より、ごく一部を抜粋して
掲載しています。

今回はその第2回目です。

げえのん（コンナモノ（ツマラ
ナイ物））
けえつつお（裏返し）
げえる（蛙）

- ㊿ ええつこ（交換する）
- けなりがす（見せびらかす）
- こうしゃくしる（クドクドと長
話をする）
- こごいる（凍死）
- こさぶい（ウス寒い）
- ごったく（振舞い行事）
- こぶで（過労で手首が腫れる）
- さいばんこき（チョッカイをす
る人）
- さくばみち（農道）
- さちちよっぱらい（後始末のダ
ラシないこと）



かわにし 併壇 高崎正風選

山荘のトロン湯といふ初夏の湯に
トロン湯に峽の緑を一望す

霜糸 星名 星光

早り田の稲を叩いて慈雨来る
八十路吾れまだ頼らるゝ田植かな

新町 若山 向山

郭公の鳴いて授戒会終る鐘
町長の祝辞給まる喜雨の中

野口 野沢 寅生

吊るされし粽に北の風を入れ
老婆の粽結ふ手のリズムかな

山野田 藤田ひろ志

電線の子燕親に餌貰う
雛燕肥りし腹の白さかな

仁田 戸田 貞

夕風の合歓を揺らして川暮るる
どくだみの十字の花の中を行く

野口 村越 由喜

月見草夜ごとに咲ける小庭かな
植木屋の帰りて空の広々と

綾瀬市 野沢ますえ

田植え機の生き物のごとく植え進む
月見草朝の空気の静かさよ

志木市 山田十久二

ざらつばい（表面がザラザラし
ていること）

さんばく（モンペ）

豆蒔くやはやも島に下りる鳩
ガラス窓螢止まりて光りけり

野口 村越 幸

一と雨の来て茄子の花つぎつぎに
陶タヌキ首かしげ居り五月照り

上野 内山 寛平

練馬まだ畑の多し大根蒔く
春うらら仏師の鑿の音高し

練馬区 須藤 遊人

首あげて親の餌を待つ菓のつばめ
如露の水浸みゆく音や早畑

小白倉 田中 優美

この土地の習いのひとつちまき結う
親不知子不知海の夏めきぬ

仁田 小幡しん女

五月晴授戒めし作務衣ほす
円やかにくゞにツゲ刈られゆく

寺尾 白井すみい

湯沸しの笛の鳴りるし昼寝覚め
大花火夜空に咲いて夏祭り

高倉 斎木 和人

荷をとけば母の香りの笹粽
足立区 涌井ハル子

故郷の便りも添えし粽かな
野口 五十嵐トラ

早魃や行の如くに水をやる
小白倉 江口みゆき

すあ（わ）ぶる（シャブル（吸う））
ずい（ちよ）（クツワ虫）

わらび採る派手な帽子は旅の人

高倉 高橋 とよ

あじさいの七色画がく絵具とく

八王子市 松浦 サク

蟬取る子放つ子踏む子怖がる子

上野 高橋 願似

つやくくとハツ手光りて梅雨空に

上野 入沢 はや

蝸牛角を伸ばして動き初む

大倉 中条 石平

残雪のアルプス浮かぶ梅雨晴れ間

浦和市 登坂 博史

一つ一つ土つけくれし苗売女

元町 金子 鉄平

鎌倉のあじさいの寺見て歩く

厚木市 川崎 保一

軒宮蒲吊るし息災祈りけり

岩瀬 登坂伊智子

宇宙への旅に金魚の出るという

足立区 駒形 頼太

梅雨晴や色とりどりのあやめ園

田中町 石沢 澄代

寸感

正風

●八十路吾れまだ頼らるゝ田植かな
まだまだという気概が感じられる
●町長の祝辞給わる喜雨の中
喜雨も又めでたい。句に喜びがある。

せつこうかける（督励する）

せつつえもん（自家用野菜）

せつらがねえ（気忙しい）

そいがった（ソウユウのだ）

そうづらねえ（ソレ所ア無イ）

そこつたま（一番の底）

そそつこう（雑な行動）

そちつべた（ソチラの方）
そらつべ（ソソッカシイ）

風川柳らびん



■材料

きんぴら用の市販のもの、みつば卵、だし汁

■調味料

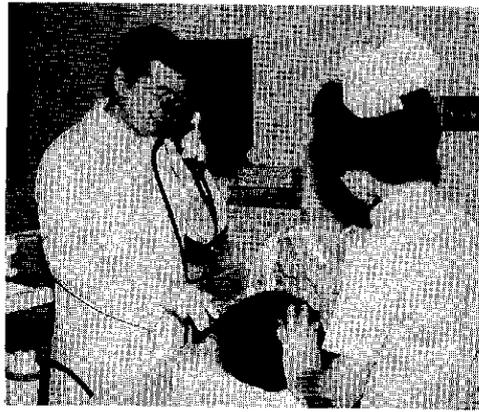
しょう油、みりん、砂糖

■作り方

- ①水3、しょう油1、みりん1、砂糖少々ときんぴらを鍋に入れて煮る。
- ②煮立ったら、とき卵をかけふたをする。
- ③とき卵に火が通ったら2～3cmに切ったみつばをちらして出来上がり。

手軽にできるおもしろ味の味

11



クリニック川西で内視鏡検査ができます。検査日は広報おしらせ版をご覧ください。
五月二十一日に初めて内視鏡の検査を受けたという男性は「思っていたよりスムーズにい

川西高校野球部に 雨天投球練習場

川西高等学校（渡辺銀次郎校長）の野球部に、後援会や保護者会、地元企業からの寄附等による雨天投球練習場ができました。
お礼の言葉を述べた畠山主将は「これで雨の日でもピッチング練習ができるようになりました。夏の大会に向けて一層頑張ります」と力強く話しました。

きました。もつとりラックスして受ければよかった」と話してくれました。

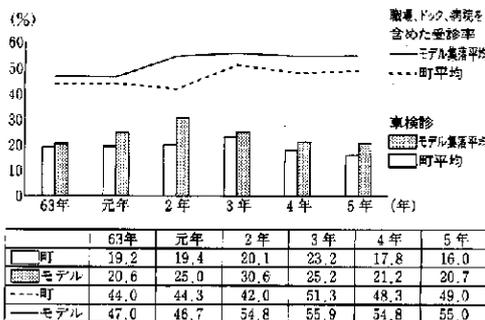


場内には、町長の筆による「一球入魂」の額が掛かり、練習をする球児たちを見守っています。

毎年受けよう胃がん検診 健康づくりモデル集落活動

町では、胃がんによる死亡が多く、がん検診の受診者が少ないことから、健康づくりモデル集落を認定し、リーダーの方を中心に集落の実態に合った方法で活動していただきました。
モデル集落は、高原田・三領・野口・岩瀬（昭和63年度認定）、沖立・元町（平成元年度認定）の六集落です。
主な活動内容は、
①リーダー研修会（年一―二回）
②健康づくり座談会（年一回）
③保健婦の全戸訪問（4集落）
④三年末受診者へ公衆衛生推進員による受診勧奨（平成3年度）
で、この結果胃がん検診の受診率は、表のようにモデル集落では、町の平均を上回る成績となりました。

表・胃がん検診受診率の推移



また、胃がん予防から、環境問題や高齢化の問題にも関心が高まり、廃油利用の石けん作りや学習会を続けている集落もあります。
リーダーさんの声
○役員が率先して検診を受け、集落の人に呼びかけました。
○関心を高めた一番のきっかけは、健康づくり座談会でした。
○わかりやすい資料で、検診率の低さや死亡率を知り驚きました。
○医師や保健婦の話で、早期発見、早期治療で死ななくてもよい病気を教えていただいた。
○健康劇がありなごやかでした。
○胃がん検診を身近な会場で受けることができよかったです。
○常会・組常会を通じて、連絡がしやすく、婦人部の協力が得られ、関心が高まりました。
モデル集落事業は、平成5年度で終了しました。この活動で高まってきた、自分の健康は自分で守る、という意識を、より広めていきたいと思います。

戸籍の窓から

たかさごーご円満に

- 小川 清和 下平新田
- 佐 恵美子 鹿兒島県から
- 小川 勝 赤谷
- 中西 久美子 高柳町から
- 井川 明弘 新町新田
- 星名 薫 沖立から
- 高橋 幹夫 17(福蔵)室島
- 平野 英男 63(本人)四郎兼
- 戸田 省吾 69(本人)仁田
- 山家 庚治 74(哲)木落
- 山家 イト 77(文夫)木落
- 田中 文 80(英雄)発通所
通東
- 江口 タニ 88(忠夫)小白倉

昇天ーごめい福を祈る

- うぶ声ーおすこやかに
- 星名 裕二 和弘 二男伊友
- 丸山奈都子 好子 二女根深
- 齋藤 佑樹 恵弘 二男上野
- 江口 千織 忠一 長女小白倉
- 滋野 萌大 介 長女野口
- 黒嶋 香純 正巳 長女高原田
- 丸山 菜帆 義幸 長女根深
- 小幡 瞳 正人 長女木落
- 小川 雅史 靖之 長男栄町
- 小林 文也 三雄 長男中仙田
- (6月1日ー30日届け出分)

ウサギさん、こんにちは



元気に育てウサギちゃん

六月十七日、千手小学校(松井定延校長)の二年生が津南町の外丸保育園に子ウサギをもらいに行ってきました。
津南町までの交通は、子供たちが時刻や料金を調べて路線バスと飯山線を利用し、キップも自分で買いました。
もらってきた子ウサギは白一羽と黒一羽で、二つのクラスでそれぞれ飼育しています。名前はまだまだついていませんが小さな手で大切に育てています。

ちいさな展覧会



▶ 2年 青木翔太君

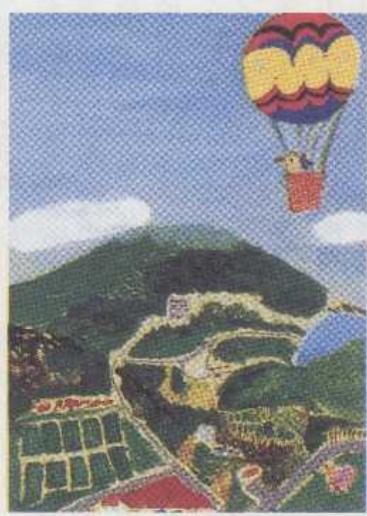


◀ 3年 南雲すみれさん



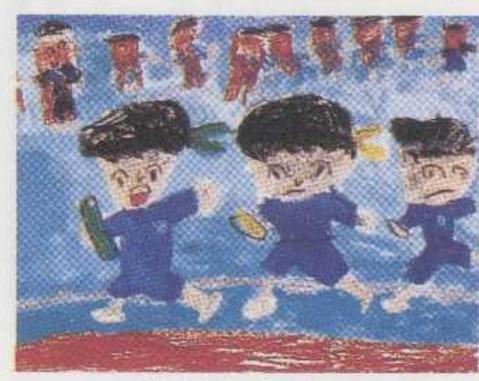
72

6年 五十川真美さん▶



▲ 5年 平野明子さん

▼ 4年 羽鳥ゆきさん



▲ 1年 星名大地くん

(8月号は上野小学校です)

千手小学校